

ブルドッグが、眠る子供を強姦しようとしたペド男のペニスを噛み切る

家族の犬が幼い子供を性的暴行から救う

【訳者注】「世界苦」という言葉がある。これは神経中枢が個別に存在するのではなく、人類に共有されるものという洞察から生まれたものである。今この時期、人類はこの「世界苦」を通り抜けなければならない。自分（たち）だけ免れることはできない。このエピソードは、そういうものとして我々に与えられている。

ドストエフスキーは、“大人に対する残虐行為はなんとか耐えられる、大人はなんとも汚れているからだ、しかし純粋無垢な子供に対する残虐行為だけは、どうしても耐えられない、それを許す神を許すことができない”と言ってもだえ苦しんだ。彼は、赤子を宙に放り上げて銃剣で刺す、子供を猛犬の群れに襲わせる、といった例をあげている。――しかしそれは一時的な恐怖で、子供は死ぬ。ペドフィリアはそうではない。トラウマが永遠に残り、普通の人間として生きることを拒否される。今、我々は、ドストエフスキーが夢想した悪と苦痛の、何倍もの悪と苦痛を突き付けられて生きている。ペドをなんとか「ノーマル化」しようと画策する、イギリス政府のようなものさえある。

このニュース記事をどう解釈するか、冒頭の写真をどう受け止めるかは、我々一人ひとりの意識のありどころにかかっている。

Jay Greenberg, www.nnettle.com

November 14, 2017



あるペドファイルが、2人の幼い姉妹が眠る、小さい住宅家屋の一階の窓から忍び込んだところ、彼らのペットのブルドッグにペニスを噛み切られる結果となり、“生き方を変えてしまう”傷害を負う身となった。<http://www.nnettle.com/tags/pedophile>

アーカンザス州 Saline 郡の 52 歳の男 Randle James は、小さな家族住居のそばを通りかかり、窓が開いているのを見て、2人の幼い姉妹の眠っている部屋へ、一階の窓から忍び込んだ。

3歳と6歳の姉妹の寝室へ忍び込んだところ、家族の飼っていたピット・ブル・テリアが幼女たちを守ろうと、ジェームズに飛びつき、彼は、そんなはずでなかったものを得てしまった。

この犬は、レイピストの生殖器をきれいに食いちぎり、ペニスと睾丸を呑み込んでしまった。

この騒ぎで、子供たちの両親は非常警備員を呼んだ。

父親と子供たちによれば、警官を呼んだあとも、攻撃した男は、あまりにも苦痛が激しいため、逃げようとはしなかった。<http://www.nnettle.com/tags/police>

ジェームズは病院へ急送され、医者は彼の傷を治療したが、生殖器はペットのブルドッグに呑み込まれてしまったので、取り戻すことはできないと言った。

病院のスタッフは、彼の傷をふさぐことはできると言い、大量の血を失い、明らかに苦痛は激しいものの、命に別状はないと言った。

彼らは加えて、彼の傷はもはや生命を脅かすものではないが、「確かに生き方を一変させる」ものだと言った。

家族（名は言えない）は、彼らの犬がそこにいて、幼い娘たちを攻撃者から救ってくれたことに感謝すると言った。

少女たちの母親は言った：――

「彼は私たちのヒーローです。今から一週間は、ご褒美にステーキを食べさせてやる」



犬は、ペドファイルの生殖器を食いちぎった後、ペニスを呑み込んだ

地方住民たちは、月曜日の午前2時ころに起こったこの事件を、この辺りにしては「非常に珍しいこと」だと言った。

一人の隣人は、この辺りでは夜はいつも窓を開け放っているが、「ここでこんなことが起こることを心配したことはない」と言った。

別の地方住人は、これが起こったとき、金切り声で目が覚めたと言った：――

「近所の人たちは一人残らず目を覚ましたと思うよ。

「こんな話は聞いたことがない。

「ホラー映画か何かのような、血も凍る金切り声だったね。

「それは20分も続いたと思う。

「何が起こったのか聞いたとき、“なるほど!” と思ったね。

「それから思った、“グッド、いい犬だ”」

Saline 郡警察署の Dodson 副署長は、声明を発表し、この家族は、性的攻撃を未然に防ぐことのできたペットがいて“ラッキー”だったと言い、こう付け加えた：――

「男が不法な意図をもって家屋に侵入したが、幸運にも、家族のペットが、深刻な災難

が起るのを防いだ。

「我々は現在、性的暴行未遂の告訴を受け調査中であり、容疑者の傷が癒え次第、身柄を拘束する予定である」

犬はまだ、攻撃者の生殖器を呑み込んだまま返却していない。しかし家族は言っている――
「なに急ぐことはないさ、彼はもうその必要がなくなったのだから」

――以上